

憲法しんぶん 速報版
発行 憲法改憲阻止各界連絡会議 (憲法会議)

Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp TEL03-3261-9007
ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp FAX03-3261-5453

2019年12月26日 (木)

NO. 1025号

本号3頁

野党連合政権へ一歩進む!

共産党志位氏、立憲枝野氏や国民玉木氏と会談

立憲民主と国民民主の党合流に向けた協議始まっています。「合流は年越しか」等と、報道されています。そのような中、15日、共産党志位氏と立憲の枝野氏ら会談しました。①閉会中も来年の通常国会においても「桜を見る会」疑惑を追及する、②安倍政権を総辞職に追い込むことに全力をあげる、③早期解散も十分にあり得るとの認識で準備を急ぐ、④安倍政権を倒し政権を変え、立憲主義を取り戻すの4点が確認されました。



また、20日、志位氏と国民民主の玉木氏が党首会談を行い、①憲法にもとづき、立憲主義、民主主義、平和主義を回復する、②格差をただし、家計や暮らし応援第一の政治に切り替える、③多様性を尊重し、個人の尊厳を大切にする政治を築く、の3点の方向で、政権交代を図るために協力することで合意しました。

これまで共産党の志位氏は、社民党の又市氏、れいわ新選組の山本氏とも会談し、政権交代をめざす合意などをそれぞれ取り交わしています。玉木氏との会談後、志位氏は「私たちの野党連合政権構想の呼びかけの方向に向けて一歩一歩前進しています」との認識を表明しました。

「60」やはり総理枠 共産党宮本議員が公文書で確認

「桜を見る会」の招待状に付された「60」の区分番号に関し、同番号が「総理大臣」推薦の招待者であることを示す公文書が国立公文書館に保管されていたことが24日、明らかになりました。日本共産党の宮本徹衆院議員が確認し、国会内で開かれた野党の桜を見る会「追及本部」のヒアリングで示しました。マルチ商法会社「ジャパンライフ」会長(当時)に2015年に送られた招待状に「60」が付されており、安倍首相が招かれた疑いがいっそう強まりました。

宮本氏が明らかにしたのは、同日付で開示された2005年の桜を見る会の「分野別招待者数」の写し。同文書は「平成18年(06年)桜を見る会決裁」というファイルの中に含まれています。それによると、すべての区分番号の横には招待者の肩書がふられており、「60」～「63」は「総理大臣推薦者」と区分され、「60」が「総理大臣」となっていました。05年当時の首相は小泉純一郎氏でしたが、「総理枠」は737人で、安倍首相の今年の「総理枠」とされる約1000人より少なくなっています。

内閣府は、今回の「桜を見る会」疑惑で招待者名簿を最終的に取りまとめるさいの「決裁行為」は一切なかったと説明していますが、06年の同会では最終決裁者として小泉首相、当時官房長官だった安倍氏をはじめ内閣府事務次官、官房長、大臣官房審議官らの印のある決裁文書も存在することが判明しました。

ヒアリングで宮本氏は内閣府に対し、政府が23日の参院内閣委員会理事会で区分番号について「60番台が官邸や与党枠」と認めたことをあげ、「『60』は『総理枠』ですね」とただしました。それに対して、内閣府の担当者は「05年は、そう(『総理枠』)だったのかもしれない」と答弁。05年以降、区分番号「60」を「総理枠」から変えた事実があるのか、と問われても答えられませんでした。

野党側は、区分番号「60」について過去の記録を全て調べて明らかにするよう求めました。

防衛省 辺野古埋め立て約 10 年に延ばす方向で調整

政府関係者が 22 日に明らかにしたところによると、沖縄の米軍普天間基地の名護市辺野古への移設計画をめぐり、防衛省は埋め立て予定海域で見つかった軟弱地盤の改良工事に時間がかかると判断し、埋め立てなどの工期を当初の 5 年から、およそ倍の 10 年に延ばす方向で調整を進めています。これによって、普天間基地の返還時期も、2030 年代にずれ込む見通しです。

米軍普天間基地の名護市辺野古への移設計画で、日米両政府は、2013 年にまとめた返還計画で埋め立てなどの工期は 5 年で、管制施設の整備などを経て、早ければ 2022 年度に普天間基地の返還が可能になるとしていました。

ところが、埋め立ては、沖縄県民の反対などで計画より遅れ、去年 12 月に始まりましたが、予定区域の 4 割余りで軟弱な地盤が見つかり、防衛省はくいを打ち込んで、地盤を改良する工事を行うことにしているため、工期の見直しを検討していました。軟弱地盤への対応については、砂を締め固めたくい約 7 万 7 千本を海底に打ち込み、地盤強化を図る工法を用いる予定。防衛省はこれまで地盤改良工事について 3 年 8 カ月と試算していました。

さらに、埋め立て完了後も施設整備に 3 年を見込んでおり、「2022 年度またはその後」としてきた普天間の返還時期は 30 年代以降に大幅にずれ込む見通しです。

政府は年明け以降に改良工事に伴う設計変更を県に申請する構えです。移設に反対する玉城デニー県知事は申請を認めない方針で、政府と県の協議が進まなければ、返還時期はさらに遅れる可能性があります。工期の延びに伴い、少なくとも 3500 億円以上と説明してきた関連経費の膨張も避けられない状況です。

振り返りますと、日米両政府は 2013 年 4 月、沖縄本島で米軍嘉手納基地より南にある施設・区域の返還計画に合意。普天間は「22 年度またはその後返還可能」と明記しました。2013 年 12 月に当時の仲井真弘多知事が埋め立て申請を承認しましたが、その後知事となった故翁長雄志氏と玉城氏は移設に反対。今年 2 月の県民投票でも反対が七割超を占めるなど、県民は「新基地ノー」の意思を示しています。

よくよく考えてみますと、10 年後北東アジアの状態はどうなっているのでしょうか。朝鮮半島の非核・平和の動き、米軍の撤退なども考えると、もしかすると、10 年かけて埋め立てても、何の役にも立たない辺野古米軍基地となってしまうのではないでしょうか。そして、10 年後には米軍は「もう、いない」と態度が変わっていることも考えられます。



新潟県憲法会議主催「憲法マイスター養成セミナー」終了 －「講義は難しかったが、セミナーに来るのが楽しみになった」－

新潟県憲法会議主催の「憲法マイスター養成セミナー」が 12 月 22 日（日）最終の第 6 講座を迎え、これまで最高の 18 名の受講生が参加しました。講師の石崎誠也先生（高岡法科大学教授、新大名誉教授 専門・行政法）から第 7 章（財政）、第 8 章（地方自治）の講義がなされ、セミナー生との活発な討論が行われました。

10 月 13 日スタートした「セミナー」には現役の労働者や民主団体のメンバー、個人の立場で参加された方など、20 名が登録され、毎回 10 名を超える参加があり、5 名の講師（大学教授、弁護士）の充実したレジュメと 2 時間に渡る熱心な講義、その後の時間が足りない程の討論が毎講座、展開されました。

各講座の受講生からの「受講日誌」（感想、何を学んだか・・・）が毎回提出され、各講師から「講評」が送り返



され、受講生も講師の評価に感激するとともに、講師も受講生からの意見に新たな発見と熱心に学ぶ姿勢に憲法が持つエネルギーを感じたとの感想が寄せられました。

第6講座終了後、「閉講式」が行われました。成嶋隆セミナー長（新潟県憲法会議議長）は挨拶で「憲法問題が、この国の基本的なありかたに関わる重要な事柄であるとしても、多くの市民にとって憲法と日常生活との間には相当な〈距離〉があることは否めない。結局、迂遠の存在であるようにみえる憲法が、じつは深いところで私たちの日常生活に関わっているのだということを、平易な言葉で地道に語っていかねばならないのだと思います。そして、じつはこの『憲法マイスター養成セミナー』も、憲法を平易な言葉で語れる達人、いわば〈憲法の語り部〉を養成しようという趣旨の取り組みなのです。平易に語るためには、憲法全体をひととおりにマスターしていなければならないと思われまますので、今回のような企画内容となりました。みなさんも、憲法マイスターのお一人となって、ぜひ憲法を語っていただきたく思います」と激励と期待の言葉を述べられました。

当日参加の18名全員にセミナー長から「憲法マイスター認定証」がポケット憲法と努力賞（千円図書カード）と一緒に贈られ、受講生から「参加してよかった」「憲法丸ごと学んだのは初めて」「講師の話は難しかったがセミナーに来るのが楽しみになった」「安倍改憲反対を運動で頑張っていきたい」・・・の感想、決意が語られました。

最後に講師を真ん中に記念写真を撮って終了となりました。

（憲法マイスター養成セミナー事務局 酢山省三）

各地のとくみ

山梨 「数々の安倍のウソを見逃すわけにはいかない」安倍政権打倒を誓い合う

「戦争させない・9条を壊すな!山梨行動実行委員会」は19日夜、甲府市のJR甲府駅南口で「戦争法廃止、19日集会」を開催し、80人が参加しました。

主催者あいさつで椎名慎太郎山梨大学名誉教授は、「桜を見る会」疑惑を隠す安倍首相を批判し、「数々の安倍首相のウソを見逃すわけにはいかない。安倍政権打倒へさらに追い込んでいこう」と呼びかけました。

南アルプス市9条の会の雨宮信二さんは、「自民党支持の人も安倍改憲は嫌だと3000万人署名に協力してくれる。野党共闘で政治は変えられるという展望を語り、安倍政権を打倒し、改憲を阻止しよう」と訴えました。集会後、参加者らは「市民と野党で安倍政権を倒すぞ」などとコールしながら市内中心部をデモ行進しました。

秋田 安倍9条改憲NO! イーゼス・アショア配備反対を訴える県民集会

「戦争法廃止、安倍9条改憲NO! イーゼス・アショア配備反対 声をあげよう! 県民集会」が19日、秋田駅前で開催されました。気温が下がり寒い中33人が集まり、リレートークを行いました。主催は「憲法改悪反対秋田県センター」。

憲法センターの虻川高範代表は、「今年の漢字や流行語は、私たちからすれば漢字は『桜』で、流行語は『ゼロベース』だ。小さな力を集めて大きなうねりをつくり出し、政治を変えよう」とあいさつしました。

日本共産党の佐藤広久・秋田市議が市議会では陸上イーゼス配備反対の請願が3回目の継続審議となったことを報告し、「今みんなで取り組んでいる県民署名を成功させ、次の議会で採択されるよう頑張る」と決意を述べました。

「イーゼス・アショアを考える勝平の会」や「県民の会」代表も署名運動を語り、藤本友里県常任委員もあいさつをしました。

この後、「イーゼス・アショア配備反対」等とコールし、市内をデモ行進しました。

